



(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-130461

(43)公開日 平成5年(1993)5月25日

(51)Int.Cl.⁵

H 0 4 N 5/222

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z 7337-5C

審査請求 未請求 請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平3-288475

(22)出願日 平成3年(1991)11月5日

(71)出願人 000005430

富士写真光機株式会社

埼玉県大宮市植竹町1丁目324番地

(72)発明者 和佐田 全良

埼玉県大宮市植竹町1丁目324番地 富士

写真光機株式会社内

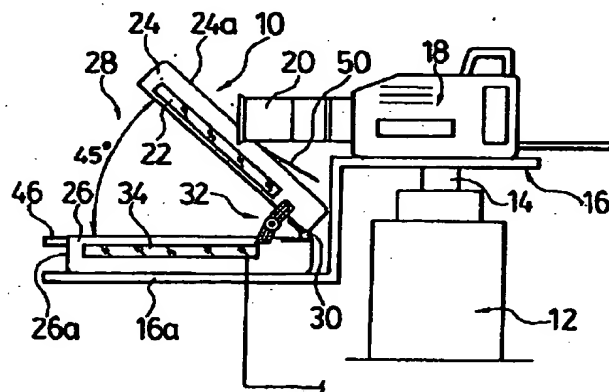
(74)代理人 弁理士 松浦 憲三

(54)【発明の名称】 プロンプター

(57)【要約】

【目的】 携帯用のプロンプター10を提供する。

【構成】 液晶パネル34をプロンプターケース28の底蓋26に、またハーフミラー22を該プロンプターケース28の上蓋24に取付け、そして上蓋24を開いた時に、ヒンジ部30、角度調整機構32によってハーフミラー22を液晶パネル34に対して45°傾斜した位置でロックする。これにより、上蓋24を開くとプロンプター10として使用することができ、また、上蓋24を閉じれば、把手34でプロンプター10を持ち運びすることができる。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 入力される映像信号に基づいて映像を表示する透過型液晶表示板と、前記透過型液晶表示板に対し所定角度傾斜した位置で透過型液晶表示板で表示された映像を反射して表示すると共に後方にテレビカメラ等が配置されるハーフミラーと、を有するプロンプターに於いて、

前記透過型液晶表示板は開閉可能なケースの底蓋に、また前記ハーフミラーは該ケースの上蓋に取付けられると共に、

前記ケースには、上蓋を開いた際に前記ハーフミラーを透過型液晶表示板に対して前記所定角度傾斜した位置で係止可能なヒンジ部が設けられたことを特徴とするプロンプター。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はプロンプターに係り、特にテレビ放送局及びテレビ電話等に適用されるプロンプターに関する。

【0002】

【従来の技術】最近、数多くのテレビ放送局に於いて、ニュースキャスタ用にニュース原稿を、テレビカメラの撮影レンズ前方に投影して表示するプロンプターが使用されている。本願出願人は特開平1-147970号公報により、従来のブラウン管表示手段に代えて透過型液晶表示手段を用い、パン操作、チルト操作等の操作性を向上させたプロンプターを提供した。

【0003】この種のプロンプターは、図4に示すようにビデオカメラ1で撮影されたニュース原稿等の資料2の画像を、ビデオカメラ1に接続されたプロンプター3の透過型液晶表示板（以下、液晶パネルという）4に表示し、そして液晶パネル4に表示された資料2の画像をハーフミラー5でニュースキャスタ6に向けて反射させている。前記液晶パネル4及びハーフミラー5は、テレビカメラ7に取付けられた支持台8に固定される。また、ハーフミラー5は、液晶パネル4に表示された画像が歪まないように液晶パネル4に対して所定角度 θ°

（ 40° から 50° ）傾斜して固定されると共に、テレビカメラレンズ9の前方に取付けられている。

【0004】これにより、ニュースキャスタ6は、ハーフミラー5で反射されている資料2の画像を見ながらニュース解説等を行うことができる。また、前記プロンプター3をテレビ電話に適用することも提案されている。これによれば、通話者は、ハーフミラー5に写し出された相手側の顔を見ながら電話することができる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来のプロンプター3は、ハーフミラー5と液晶パネル4とが支持台8に固定されているので、持ち運びできないという欠点がある。本発明はこのような事情に鑑みてなされ

たもので、携帯用のプロンプターを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決する為の手段】本発明は、前記目的を達成する為に、入力される映像信号に基づいて映像を表示する透過型液晶表示板と、前記透過型液晶表示板に対し所定角度傾斜した位置で透過型液晶表示板で表示された映像を反射して表示すると共に後方にテレビカメラ等が配置されるハーフミラーと、を有するプロンプターに於いて、前記透過型液晶表示板は開閉可能なケースの底蓋に、また前記ハーフミラーは該ケースの上蓋に取付けられると共に、前記ケースには、上蓋を開いた際に前記ハーフミラーを透過型液晶表示板に対して前記所定角度傾斜した位置で係止可能なヒンジ部が設けられたことを特徴とする。

【0007】

【作用】本発明によれば、透過型液晶表示板をケースの底蓋に、またハーフミラーを該ケースの上蓋に取付け、そして上蓋を開いた時に、ヒンジ部によってハーフミラーを透過型液晶表示板に対して所定角度傾斜した位置で係止する。これにより、上蓋を開くとプロンプターになり、また上蓋を閉じれば、前記ケースを持ち運びできる。

【0008】

【実施例】以下添付図面に従って本発明に係るプロンプターの好ましい実施例について詳説する。図1は本発明に係るプロンプター10がテレビ電話に適用された実施例が示されている。旋回装置12の旋回軸14の上部にはクランク形状の支持台16が固着され、この支持台16上にはテレビカメラ18が設置されている。更に、この支持台16の先端部16aには前記プロンプター10が載置され、このプロンプター10はビデオカメラ18のレンズ部20の前方にプロンプター10の後述するハーフミラー22が位置するように配置される。

【0009】前記プロンプター10は、上蓋24と底蓋26とから成るプロンプターケース28を有し、この上蓋24と底蓋26とがヒンジ部30、角度調整機構32を介して開閉可能に構成される。前記上蓋24には前述したハーフミラー22が固定され、底蓋26には液晶パネル34が固定される。前記角度調整機構32は図2に示すように角度調整板36、38、ロックねじ40を有し、前記角度調整板36は上蓋24に、角度調整板38は底蓋26に各々の端部が固着されると共に各々に形成された円弧状長孔42、44がオーバーラップするように取付けられる。また、前記ロックねじ40は角度調整板38の長孔44に取付けられており、上蓋24を開いた際に、液晶パネル34に対するハーフミラー22の傾斜角度を 45° で固定することができる。

【0010】底蓋26の縁部26aには図1、図3に示すように把手46が取付けられる。更に、上蓋24の上

面24aには、前記テレビカメラ18のレンズ部20の先端部を挿入する為の矩形状開口部48が形成されると共に、この開口部48を開閉する蓋50が一对のヒンジ部52、52によって回動可能に支持されている。次に、前記の如く構成されたプロンプター10の作用について説明する。

【0011】まず、プロンプター10を使用する場合には、プロンプターケース22の底蓋26を支持台16aに載置し、この状態から上蓋24を開く。上蓋24を開くと上蓋24は、角度調整機構32によって液晶パネル34に対するハーフミラー22の傾斜角度が45°になる位置でロックされる。次に、上蓋24の蓋50をヒンジ部52、52で開き、その開口部48にテレビカメラ18のレンズ部20を挿入し、レンズ部20の前面にハーフミラー22を位置させる。これにより、プロンプターとして使用することができる。

【0012】次に、プロンプター10を持ち運びする場合には、上蓋24を閉じると共に、蓋50で開口部48を閉じる。そして、把手46でプロンプターケース28を持ち運ぶ。これにより、プロンプター10を容易に持ち運ぶことができる。従って、本実施例では、上蓋24を開くとプロンプターになり、また上蓋24を閉じれば把手46で持ち運びできる携帯用のプロンプターになる。

【0013】

【発明の効果】以上説明したように本発明に係るプロンプターによれば、透過型液晶表示板をケースの底蓋に、またハーフミラーを該ケースの上蓋に取付け、そして上*

* 蓋を開いた時に、ヒンジ部によってハーフミラーを透過型液晶表示板に対して所定角度傾斜した位置で係止する。これにより、上蓋を開くとプロンプターになり、また上蓋を閉じれば持ち運びできる携帯用のプロンプターになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るプロンプターがテレビ電話に適用された実施例を示す正面図

【図2】本発明に係るプロンプターのヒンジ部の要部拡大図

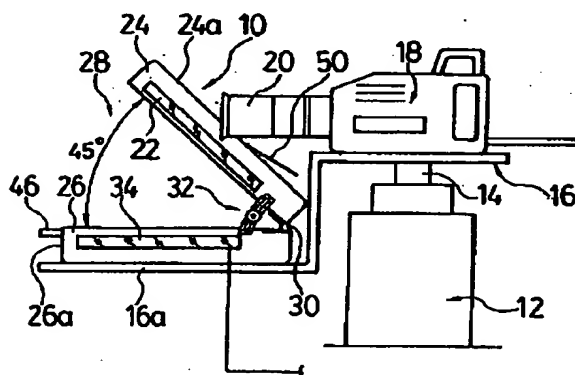
【図3】従来のプロンプターの実施例を示す斜視図

【図4】従来のプロンプターがテレビ放送局に適用された説明図

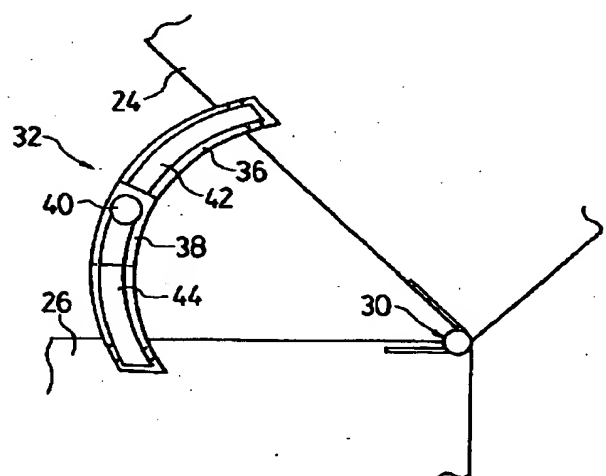
【符号の説明】

- 10…プロンプター
- 18…ビデオカメラ
- 22…ハーフミラー
- 24…上蓋
- 26…底蓋
- 28…プロンプターケース
- 30…ヒンジ部
- 32…角度調整機構
- 34…液晶パネル
- 36、38…角度調整板
- 40…ロックネジ
- 46…把手
- 48…開口部
- 50…蓋

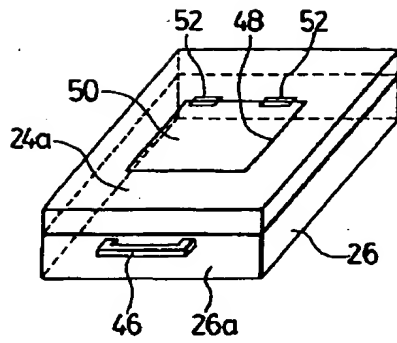
【図1】



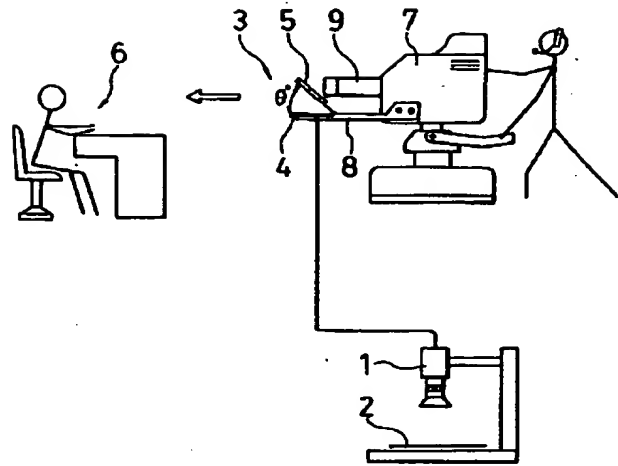
【図2】



【図3】



【図4】



BEST AVAILABLE COPY